

紛議ヲ避ケ條約ヲシテ圓滑ニ執行スルヲ得シメ
ント欲セハ司法及行政ノ事項ニ關シ豫メ攻究
規定スル所十カレハカラス茲ニ本委員ハ日獨
條約ノ審査ニ際シ特ニ當局ノ注意アラント望ム

明治廿七年七月七日

- 委員長 樞密顧問官 伯耆佐野常民
- 委員 樞密顧問官 伯耆榊山資紀
- 委員 樞密顧問官 子爵福岡孝弟
- 委員 樞密顧問官 子爵河瀬真孝
- 委員 樞密顧問官 子爵島尾小弥太

樞密院議長 伯耆黒田清隆殿

日清通商航海條約委員會報告

今回御諮詢ノ日清通商航海條約ヲ審査スルニ
本條約ハ馬關條約ヲ基礎トシテ條項ヲ分テ精
細ニ必要ノ事項ヲ規定シタルモノナリ又之ヲ
清國ト泰西諸國トノ間ニ存スル現行通商航海
條約ト對照スルニ概テ皆大同小異ニシテ其間
敢テ優劣アルヲ見ヌ故ニ大體ニ於テハ不都合
ナキモノト認ム而シテ馬關條約第六條第四ノ
二項ヲ見ルニ清國ニ於ケル日本國臣民ノ製造
ニ係ル一切ノ貨品ハ各種内國運送税内地税賦

課金取立金ニ關シ又清國內地ニ於ケル倉入上
ノ便益ニ關シ日本國臣民カ清國へ輸入シタル
商品ト同一ノ取扱ヲ受ケ且同一ノ特免免除ヲ
享有スヘキモノトスアリ該項ハ馬關條約中
最重要事項ノ一ナリ然ルニ他ノ事項ハ概子本
條約中更ニ規定シタルニ拘ラス該項ニ關シテ
ハ何等ノ規定ヲ設クルコトナキハ妥當ナラサ
ルニ似タリ今當局者ニ就テ聞クニ其理由ノ第
一ハ北京ニ於テ彼我全權委員會見ノ際我委員
ハ能迄馬關條約ノ明文ニ依リ清國ニ於テ製造

シタル貨品ニ對シ清國政府ニ於テ課税ノ權ナ
キ旨ヲ主張セシト雖モ清國委員ハ馬關條約ノ
解釋上異議ヲ唱ヘ或ハ自國財政困難ノ事情ヲ
訴ヘ數回會見ヲ重子論議スルモ徒ニ時日ヲ費
スノミナナルヲ以テ我政府ハ不得已本問題ハ他
日ニ讓リ以テ條約商議ノ進行ヲ促シタリ第二
ハ本問題ニ付テハ經濟上利害ノ點ニ於テ頗ル
考慮ヲ要スルモノアルニ依リ今邊ニ之ヲ決定
セシヨリハ寧口熟慮措置ノ餘地ヲ他日ニ存ス
ルノ利益アルヲ認メタルニ依リ馬關條約

ニ據リ得タル一切ノ特權免除及利益ハ已ニ今
回ノ條約第二十五條ニ依リ更ニ確定セラレタ
レハ敢テ我既得權ヲ侵害セラル、ノ虞ナカル
ヘシ
右ノ理由ナルニ依リ本案ハ可決セラレ可然ト
認ム

明治二十九年九月廿五日

委員長

樞密顧問官子爵田中不二磨

委員

樞密顧問官細川潤次郎

樞密顧問官子爵河瀬真孝

樞密顧問官大島圭介

樞密顧問官子爵島尾小彌太

樞密院議長伯爵黒田清隆殿

審査報告書

今回御諮詢ノ陸軍召集條例ヲ按スルニ本條例
ハ明治十九年陸軍省令ヲ以テ制定セラレタル
モノニシテ爾後陸軍各制度ノ更改シタルモノ
多ク且廿七八年戦役ノ實驗ニ徴シ之ヲ改良ヲ
要スルモノ少ナカラサルニ依リ今回併セテ條
例全部ノ改正ヲ為サントスルモノトス而シテ
其改正ノ要點ハ近衛師團ノ編成ヲ改メ特ニ一
ノ師管ヲ設ケタルニ依リ召集方ヲ變更セサル
ハカヲ付ルコト士卒ノ召集ニ一定ノ期ヲ指